

10月15日(火)に大阪府立茨木西高等学校で第4回研究会が行われた。同校では「使える英語プロジェクト事業(English Frontier High Schools)」の指定を受け、その取り組みとして「スピーク・アウト」を採用。今年で3年目となる。昨年までは高2の1学年のみの実施だったが、今年は高3、高2の2学年でプロジェクト授業を行っている。今回の研究会では、各学年の1・2学期の取り組みについての報告と今後の計画についての発表がされた。

取材・撮影_応援マガジン編集部

高3の実践報告と今後の予定

1学期は昨年から続けている「30 Questions」(30題のQ&A)に始まり、教科書のレッスンに入った。レッスンの最終タスクは、iPadの「keynote」を使用したプレゼンテーションで、スライドを示しながら発表する。最初の3枚のスライドで登場人物の紹介をして、残り2枚のスライドで「自分ならどんなことができるか」について発表した。そして2学期も同じく「30 Questions」に始まり、最終タスクをレッスンの登場人物の親子になりきって、会話を予想しながらのペアワークとした。現在はその原稿を作成中。各レッスンの最後に行うアウトプット活動の準備期間に、昨年より余裕を持たせている。しかし家でもやってくるすぐに準備を終わってしまう生徒と、放課後に残ってやらないと終わらない生徒がいて、その差は大きくなる一方。そこが今の課題である。そして3学期は最終タスクを、2~3名のグループでのスキットの作成としている。当初ディベートの予定だったが、ディベートについての基本的な知識を教えることから始めなければならないため、教科書のタスクにあった「言語の多様性について賛成か、反対か」に対する意見について、グループに割り当ててスキットを作らせることにした。

この課題を課すにあたって、金谷憲先生より「発表のポイントは『文法が理解できているか』『習った表現が使えているか』です。スキットを作るために生徒に提示する資料は、日本語でなく英語であるべきです。そして発表に向けて練習したことこそが大事であり、またその結果どうなったのか、定着率が上がったのか、測定することが必要になります」とアドバイスがあった。



アドバイスをされる
金谷 憲先生

高2の実践報告と今後の予定

夏休みの課題として「30 Questions」の練習をさせ、夏休み明けに答え合わせをした。その後「自己紹介スピーチ」を実施。スクリプトを作って発表させた。それが終わると教科書のレッスンに入り、最終のアウトプット活動は「Fair Trade商品の宣伝」としている。Fair Trade商品に関するレッスン内容のため、発表ではテレビショッピング番組という設定で、プレゼンテーション形式で商品の宣伝をさせる。現在はプレゼン用の原稿を作成している最中である。この発表を終えた後は、「30 Questions」をALTと行うインタビューテストをはさんで次のレッスンに入る。そのレッスンは、ある映画の原作を題材としていて、生徒は高1のときにすでにその映画を見ている。その映画について、映画解説者になって解説するというのが最終課題である。当初は劇を最終課題にしようと考えていたが、台本作りなどの手間が掛かり、時間的に無理があることから解説することにした。

この学年は高1からアウトプット活動を頻繁に行ってきたため、プレゼンテーションなどの発表活動に前向きに取り組む生徒が多い。ほとんどの生徒が最終課題をこなせている状態だが、それにも向き不向きがある。発表が得意でない生徒には原稿作りの部分で評価するなどして、生徒の得意な部分を評価するように心掛けている。今後は、活動に対して前向きな生徒のモチベーションを継続できるよう、指導していくことが課題である。

今年で研究指定校の任期が終了となる。そのために実施しなくてはならないのが、このプロジェクトの効果の測定だ。学習効果、研究授業効果をさまざまな面から測定し次回研究会で報告する。



研究会の様子